

1 単元名 災害に備えてわたしたちにできることは

2 単元の目標

過去に起きた自然災害について調べたり、自分が住む地域で起きる災害を想定し、地域に必要な備えや危険性について整理したりする活動を通して、防災マップを作成する。また、作成した防災マップを相手や目的に応じたものにし、地域へ発信することで、災害に適切に対応するために自分にできることを考え、それを家族や地域の人たちに伝えたとともに、これからの自分の生活や行動について生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去の自然災害について知り、自分が住む地域に必要な備えと、危険性について理解している。 ②災害に適切に対応するために、現地調査で収集した情報を付け加えている。 ③災害に適切に対応するために、自分にできることに気付いている。	①過去の自然災害から、みんなが安全に生活するために必要なことについて考え、課題を設定し、調べることで解決の見通しをもっている。 ②課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、項目ごとに蓄積している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④災害に適切に対応するための手段を目的に応じて他者に伝えている。	①自然災害や防災に関心を持ち、自分の生活を見つめ直し、自分の意志で課題を解決しようとしている。 ②現地調査したことを、自分と違う意見や友達の考えのよさを生かしながら、協働的に課題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決の状況を振り返り、これからの自分の生活や行動に生かそうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

近年日本各地で起きている自然災害や、それに伴った被害の様子から、学校現場における防災教育の重要性が注目されている。マニュアルにとらわれた防災訓練や防災教育をするのではなく、児童一人一人が災害に適切に対応する能力を育まなければならない。今後災害が発生することを想定して、自分たちが住む地域に必要な備えと、危険性について調べる活動を通して、防災マップを作成する。また、作成した防災マップを地域の人たちに伝えるために、自分にできることについて考え、それを地域へ発信する活動を通して、防災意識を高め、災害に適切に対応できる能力を育みたい。

(2) 児童観

<児童の意識の実態（令和6年*月*日実施、第5学年*人回答）>

質 問 内 容	「当てはまる」と回答した人数
自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	*人
課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる。	*人
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	*人
各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。	*人
自分の考えを発表するときに、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発表している。	*人

本校児童は、総合的な学習の時間に関する意識調査の結果から、探究のプロセスにおいて、主体的に取り組んでいる児童が半数以下である。この調査から、課題解決に主体的に取り組んだり、他教科の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることに課題があることが分かった。本校学区は大変広く、筑波山や桜川が学区内にあることから、土砂災害や水害の被害にあう可能性が高い学区である。そのため住む場所によっては、危険になるものや備えなければならないものが変わってくる。実用性のある防災マップを作成するためには、必要な情報を収集し、整理・分析して、自分たちにできることを考え、必要な情報を記述する必要がある。

(3) 指導観

本単元では、「探究ログ」を活用して、探究的な学習に取り組む。「探究ログ」は、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えを深めるための手立てである。探究課題を貫く問い「みんなが安全に避難できる防災マップとするために自分にできることは何だろう」を設定することで、児童は常に、探究課題を貫く問いを意識し、自分にできることを考えるようになる。毎時間、振り返りのテンプレートをヒントにすることで、本時で学習したことを整理し、次時への見通しについて振り返りを記述できるようにする。教師は、その記述内容に、探究課題を貫く問いを意識したコメントを返すことで、児童は自分にできることをさらに考え深めるようにしていきたい。また、困っている児童を把握し、次時の指導につなげる。ペア学習やグループ学習等で他者と一緒に調べるだけでなく、よりよい考えを導き出すことができるようにするために、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を取り入れるようにする。それによって、多様なアイディアや視点を組み合わせる等の相互作用の中で、新たな考えが導き出され、自分にできることについて、より考えを深めるようになる。また、作成した防災マップを、地域の人たちに合わせた防災マップにし、それを発信する活動を通して、災害に適切に対応できる力を育むことができると考える。

5 単元の指導計画（11 時間扱い）

小単元名	探究の過程	学習活動・内容	知技	思	態	評価及び評価方法等 ・指導上の留意点
1 みんなが安全に生活をするためには、どんなことが必要か考えよう。	課題の設定（2時間）	- 探究課題を貫く問い「みんなが安全に避難できる防災マップとするために自分にできることは何だろう」について記述する。 4年生で学習した「マイタイムラインをつくろう」を思い出し、自分たちが住む地域では、どんな危険があるか予想を立てる。	①		①	- 自然災害に対して、どんな備えが必要で、どんな危険があるか予想できない児童には、4年生で学習した内容を提示する。 - 知：過去の自然災害について知り、自分が住む地域に必要な備えと、危険性について理解している。 【ワークシート、観察】 - 態：自然災害や防災に関心をもち、自分の生活を見つめ直し、自分の意志で課題を解決しようとしている。 【ワークシート、観察】
		みんなが安全に生活をするためには、どんなことが必要かについて考え、課題を設定し、解決の見通しをもち、調べ始める。				4年生の社会科で学習した防災の内容や身近で行われていることについて振り返れるようにする。 - 思：過去の自然災害から、みんなが安全に生活をするために、必要なことについて考え、課題を設定し、調べることで解決の見通しをもっている。 【ワークシート、観察】
		みんなが安全に生活をするために必要な備えと、危険性について調べ、情報を蓄				情報収集ができない児童には、身近にあるものを具体例として考えるよう助言する。

	情報の収集 (2時間+夏休み)	積する。 自分たちが住む地域を夏休みに調査するため、地域ごとに現地調査の計画を立てる。	②	思：課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、項目ごとに蓄積している。 【ワークシート、観察】
(夏休み)		- 夏休みに、各地域に分かれて現地調査を行う。 - 情報を収集し、整理する際には、学習支援ソフトを活用する。	②	適宜学習支援ソフトで児童たちの情報収集の様子を観察し、必要に応じて支援をする。 態：現地調査したことを、自分と違う意見や友達の考えのよさを生かしながら、協働的に課題解決に取り組もうとしている。 【学習支援ソフト】
2 防災マップをつくらう。	整理・分析 (1時間)	- 専門家から話を聞き、防災に関する必要な情報を知る。 - 地域の人にとって、便利な防災マップにするために、必要な情報について知る。	③	解決に向けて考えたり、必要な情報を選んだりすることが困難な児童には、思考ツールを活用して、情報を整理できるよう助言する。 思：課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 【ワークシート、観察】
	まとめ・表現 (1時間)	現地調査で収集した情報をもとに、自分たちが住む地域の地図を使って、防災マップを作成する。	②	必要な情報を付け加えることが困難な児童には、同じ地域の人と行うように話をする。 知：災害に適切に対応するために、現地調査で収集した情報を付け加えている。 【防災マップ、ワークシート、観察】
3 地域の安全を守るためにできることを発信しよう。	課題の設定 (1時間)	目標：過去の自然災害から、みんなが安全に避難できる防災マップとするために自分にできることについて考え、課題の設定をし、調べることで解決の見通しをもつことができる。 - 前時までの復習 - 防災マップは、何のために作成し、いつ使うものなのかを確認する。 - 本時の課題 防災マップは、「誰に」「どこで」「何のために」使ってもらいたいかを考えよう。 - 作成した防災マップを「誰に」「どこで」「何のた		- 項目ごとに板書し、視覚的に理解しやすいようにする。 - 探究ログ内にある「学習の流れ」を確認し、活動できるようにする。 - 作成した防災マップは、「誰」に使ってもらいたいかを考えさせる。「場所」や「目的」についても考える。

		めに」の順番で、課題を設定する。 ・各項目で考えたことについて、情報共有ツールに投稿する。 3 振り返り ・本時の授業について探究ログに記述する。	①	・相手や目的がイメージできない児童には、情報共有ツールを活用し、友達の考えを参考にすることで、課題を設定できるようにする。 思：過去の自然災害から、みんなが安全に生活をするために必要なことについて考え、課題を設定し、調べることで解決の見通しをもっている。【ワークシート、観察】 ・探究ログ内の振り返りのテンプレートを参考にし、記述できるようにする。
情報の収集 (1時間)	目標：課題の解決に必要な情報を収集し、課題に合わせて情報を蓄積することができる。 1 本時の課題 相手や目的に合った防災マップにするために、情報を集めよう。 2 情報収集 ・ワークシートに、調べる課題を記述し、インターネット等で目的に合った情報を収集する。 ・課題が同じ人で集まり、グループ学習等で意見交換をしながら、情報を収集する。 ・収集した情報は、情報共有ツールに投稿する。 3 振り返り ・本時の授業について探究ログに記述する。		②	・前時の振り返りを基に、本時の課題を確認することで、見通しをもてるようにする。 ・探究ログ内にある「学習の流れ」を確認し、活動できるようにする。 ・課題が同じ人で集まり、学習形態をペア学習やグループ学習等にするここと、意見交換をしながら、調べることができるようにする。 ・調べた情報を共有するために、情報共有ツールに投稿できるようにする。 ・情報収集が困難な児童には、情報共有ツールを活用し、参考になる情報を書くように声をかける。 思：課題の解決に必要な情報を収集し、課題に合わせて蓄積している。【ワークシート、観察】 ・探究ログ内の振り返りのテンプレートを参考にし、記述できるようにする。
整理・分析 (1時間)	目標：課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えることができる。 1 本時の課題 相手や目的に合った防災マップにしよう。 ・学習の流れ ①発信する場所ごとに集まる。			・前時の振り返りを基に、本時の課題を確認することで、見通しをもてるようにする。 ・探究ログ内にある「学習の流れ」を確認し、活動できるよう呼びかける。

		②場所ごとに相手や目的を確認する。 ③情報を共有、整理する。 ④相手や目的に合った伝え方で作る。 2 全体で情報を共有 ・集めた情報を、課題ごとに情報共有ツールへ投稿し共有する。 3 防災マップ改善 ・情報を整理し、相手や目的に合った伝え方で防災マップを改善する。 4 振り返り ・本時の授業について、探究ログに記述する。			・発信する場所ごとに集まり、相手や目的を確認できるようにする。 ・前時までに集めた情報を課題ごとに、情報共有ツールへ投稿し、情報を共有できるようにする。 ・タブレット端末を忘れた児童には、近くの友達と協力して、投稿できるようにする。 ・情報共有ツールから必要な情報を選んで整理できるようにする。 ・相手や目的に合った伝え方で防災マップを改善できるようにする。 ・情報整理が困難な児童には、発信する相手に応じて、具体的な工夫点を確認するよう声をかける。 思：課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 【ワークシート、観察】 ・探究ログ内の振り返りのテンプレートを参考にし、記述できるようにする。
まとめ・表現 (2時間)		・相手や目的に応じた防災マップに改善し、それを発信するために、災害に適切に対応できる説明を考え、教師に伝えることで、説明の練習をする。		④	・説明することが困難な児童には、グループ等で考えても良いことを伝える。 思：災害に適切に対応するための手段を目的に応じて他者に伝えている。 【ワークシート、観察】
		・防災マップを発信することで、自分にできることを考え、全体で共有する。 ・探究課題を貫く問い「みんなが安全に避難できる防災マップとするために自分にできることは何だろう」について記述する。	③	③	・自分にできることを考えたり、学習した内容を生かしたりすることが困難な児童には、全体で共有した情報共有ツールを参考にして考えるよう声をかける。 知：災害に適切に対応するために、自分にできることに気付いている。 【ワークシート、観察】 態：課題解決の状況を振り返り、これからの自分の生活や行動に生かそうとしている。 【ワークシート、観察】